

## 「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機 関 名	東京大学	整理番号	S01
プログラム名称	多文化共生・統合人間学プログラム		
プログラム責任者	石井 洋二郎	プログラム コーディネーター	内野 儀

### ◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

#### [総括評価]

一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

#### [コメント]

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、新しい大学院教育の理念である「統合人間学」を提唱しているものの、その実質化に向けて一層の取組の強化が必要である。ユニット横断型の実習に基づく教育単位としての「教育プロジェクト」の設置を行い、学際的・複合領域的な教養的学知を生み出すための一貫したカリキュラムの体系化及び階層化に取り組んでいることは評価できる。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性については、海外の大学で職を得て活躍するケースなども想定しながら、多様なキャリアパスの可能性を提示する努力を継続して行っているが、養成する人材像の一層の明確化に取り組むとともに、本プログラムの狙いに相応しい汎用力の育成・インターンシップについては更に検討を進めていくことが期待される。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、国際メンターズチーム（担当メンター、国際メンター、EMP（社会人向けのエグゼクティブ・マネジメント・プログラム）メンターの計3名）による充実した指導体制により、成長・活躍の基盤を提供していることは十分評価できる。

優秀な学生の獲得については、多様な背景を持つ学生を幅広く受け入れ、また、プログラム参加学生から日本学術振興会特別研究員（DC）採用者を多数輩出するなど、優秀な学生を確保している。一方で、社会人リカレント教育選抜については、今後実現に向けての努力・取組が期待される。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、副専攻プログラムである現段階では、博士論文研究基礎力審査（QE）及び学位審査体制の構築に今なお課題を残している。そのため、平成30年度に予定されている独自プログラムへの移行の際には、学位の質保証システムの再構築が必要である。

事業の定着・発展については、独自プログラム化への動きが現段階では流動的であることから評価することは困難であるが、本プログラムが主専攻として制度化された際には、「統合人間学」という理念をどのように具現化するか十分な検討が必要と考えられる。